

# 令和3年度

## 総務企画部の方針書

部名	総務企画部
部長名	村田 清和

### 1. 部の使命(ありたい姿)

新しい流れを探り・取り入れながら、全体調整役としての使命を担い『幸せな地域社会』を実現する。	
担当政策	政策7:横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます
担当施策	3-3:災害に強いまちづくりの推進      5-3:市民が利用しやすい公共交通の充実 6-3:情報を共有する環境の整備      7-1:住民ニーズに対応した成果重視の行政運営の確立 7-3:戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実

### 2. 部の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none"><li>・「第2次横手市総合計画後期基本計画」&amp;「第2期横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のスタート年度</li><li>・「新大型施設」&amp;「十文字一小エリア」の計画推進</li><li>・行政経営マネジメントの推進(行政評価、BPR、外部化)</li><li>・各種システム更新における導入効果の最大化</li><li>・災害に対する予防的措置と実践的対応</li><li>・人口減少対策</li></ul>
---

### 3. 今年度の『スローガン』

<p>◇ チーム力の最大化＝『戦略的思考』と『柔軟な取り組み』！</p> <p>◇ 『もの』は三つの目で見ると！ 鷹の目(マクロ)、蟻の目(ミクロ)、魚の目(トレンド)</p>
--

### 4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 『新展開』へのスタート年度。新計画を確実に前進させる。</li><li>◇ 常に人口減少に歯止めをかけることを意識した計画実行と事業展開。</li><li>◇ 新しい流れを素早く取り入れる体制・体質を作る。</li><li>◇ 横手市役所総合力向上のため、的確かつ効果的な後方支援を行う。【全庁マネジメント】</li></ul>
--

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	新たな計画・新たな取り組みの確実なスタートとスピード感のある前進
	取組内容	○「第2次横手市総合計画後期基本計画」「第2期横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行管理。 ○新体育館、新市民会館、十文字一小エリア開発、などの次世代計画へのセカンドステップ開始。 ○地域おこし協力隊制度の着実な運用。 ○第3次定員適正化計画の運用開始と職員研修の充実。 ○地域防災計画の推進。
(2)	実現したい成果	行革視点による「デジタル化(DX)」「業務改革(BPR)」「業務スクラップ」等の実施
	取組内容	○全庁的な視点での各種業務・作業のデジタル化を促し、検討し、実施する。 ○業務&作業プロセスの見直し・再構築。【BPR実行】→スクラッププロセス・スクラップ事業の洗い出し。【省力化、デジタル化、事業の廃止・縮小・統廃合】。 ○システム導入効果の最大化を図る。
(3)	実現したい成果	平常時・災害時、明確な意図を持って情報を取り扱うことが出来る
	取組内容	○情報戦略の再構築、情報発信方法・手段・内容の再構築 → Society5.0目線、新HP構築、市報発行、横手情報センターの運用、アプリの活用、NHKデータ放送の活用&周知、FM不感地帯解消への取り組み ○全庁的な情報リテラシーの向上 → 庁内啓蒙活動 ○情報取得方法の再検討 → 国・県からの情報、補助金・交付金・新制度等の情報取得

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- 重点取組(1):地域おこし協力隊は2名就任し、10月から本格活動へ。大型施設等の次世代計画は、前期は説明期間。様々意見は頂いているが、説明はしっかりと行ってきている。その他、職員研修は通常レベルでは機能していない、など、コロナ禍により停滞気味の部分もあるが、概ね問題なく進んでいる。
- 重点取組(2):押印署名見直しは順調に進捗。その他項目については、具体的レベルでは今一つといったところ。後期に向けて積極取組の必要がある。
- 重点取組(3):新HPは順調に稼働。FM不感地帯も調査・対応を進めているが、アンテナへの拒否反応について課題が発生している。コミュニティFMでの放送事故が2件発生。フェイルセーフの機能不全、機器構成の不備などが原因。早急に対処するが、対処レベル・費用等の検討が必要。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- 重点取組(1):コロナ禍が徐々に解消されることを前提に、各計画の進捗度を調整する必要がある。大型施設案件については、次年度予算に設計費を計上出来るように各課題を整理しスケジュールリングすること。
- 重点取組(2):業務プロセスの見直し等BPRについて、今一度全庁に取り組みを促す。併せてデジタル化可能な業務&手続きの洗い出しも行う。全体的にデジタル化及び業務改革についての意識・認識が薄いことにより取り組みが進まない。啓蒙・説明・指導・ハンズオン等の方法を考え実行する。
- 重点取組(3):コミュニティFMの機器更新について、今年度計画分に加え、全体の機器構成の見直しを行う。ノンストップ安全運用を前提とした機器・回線の冗長化、整備費用等。FM不感地帯解消については、検証と住民意思を明確にして取りまとめること。地域おこし協力隊、新HP、アプリ、データ放送を積極的に活用する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- 重点取組(1):大型施設案件については、次年度予算に設計費等必要予算を計上。設計に向けて踏み出す準備を整えた。各計画もコロナ禍の中概ね順調に進捗できた。次年度においても引き続きスピード感をもって進めて進めていくこととする。
- 重点取組(2):全体としての検討は継続しているものの、実施までは至っていない項目が多い。デジタル化及び業務改革についての意識・認識が薄いことにより取り組みが進まない。特にBPRについては理解不足もあり、業務担当課からの発案が出来ていない。改めて考え方・取り組み方法・手順等について周知が必要と思われる。次年度も継続して取り組む必要あり。DXへの注力が必要と認識する。
- 重点取組(3):コミュニティFMの機器更新について、次年度予算に全体の機器構成の見直しを行うための予算を計上した。機器の冗長化を図り、安定した運用が可能となるよう進める。FM不感地帯解消については、継続して取り組む案件とする。アンテナ設置等、こちらの意図と住民の方々の意識に乖離がある状態である。時間をかけて解決に臨む。情報に係るツールは積極的に利用できている。「伝わる情報」を目的に継続して取り組んで行くこととする。